

京都市都市計画マスタープラン

目標とする都市の姿



これまでの「保全・再生・創造」の土地利用を基本としながら、鉄道駅等の交通拠点周辺や地域ごとに、それぞれの特性に応じた都市機能の集積を図るとともに、各地域が公共交通等によりネットワークされた、暮らしやすく、持続可能な都市の構築を目指す。

将来の都市構造

③ 相互につながる個性的な地域の形成

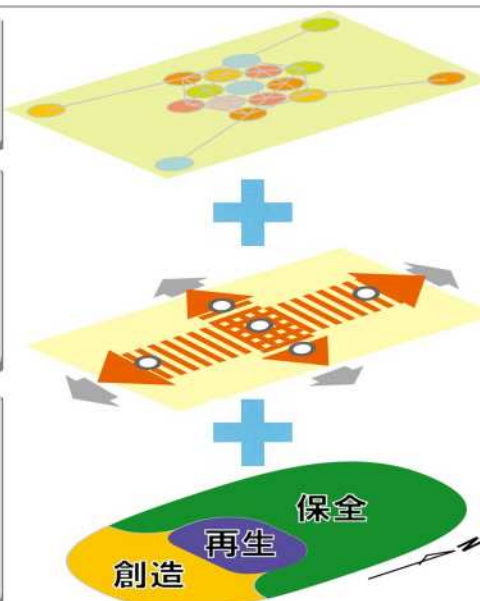
- 個性的な地域の形成
- 地域をつなぐネットワークの強化

② 都市活力の向上と低炭素社会を実現する都市構造の形成

- 交通拠点を中心とした都市拠点の強化
- 地下鉄をはじめとする鉄道やバスなどの公共交通をはじめとした都市軸の活用

① 京都市の特性を踏まえた土地利用の展開

- 保全・再生・創造の土地利用
- 山間部から市街地内部にかけての段階的な空間形成



土地利用・ゾーニング

商業系の土地利用

- 商業・業務が中心となる地域
- 生活を支える商業が中心となる地域

工業系の土地利用

- 住宅地と工業地が混在している地域
- 工業が中心となる地域

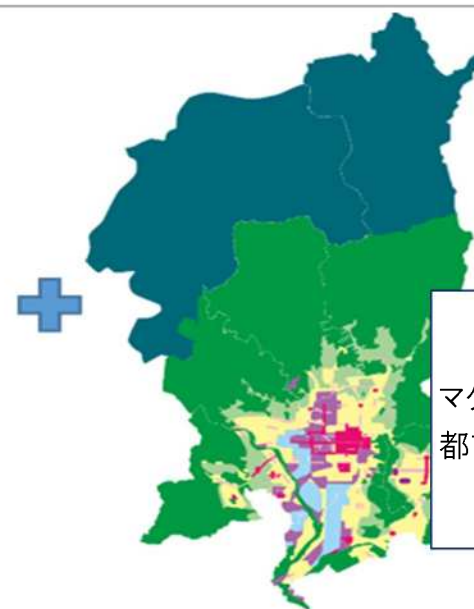
住居系の土地利用

- 良好な住居の環境を保護する地域
- 住居の環境を保護する地域

自然と共生する土地利用

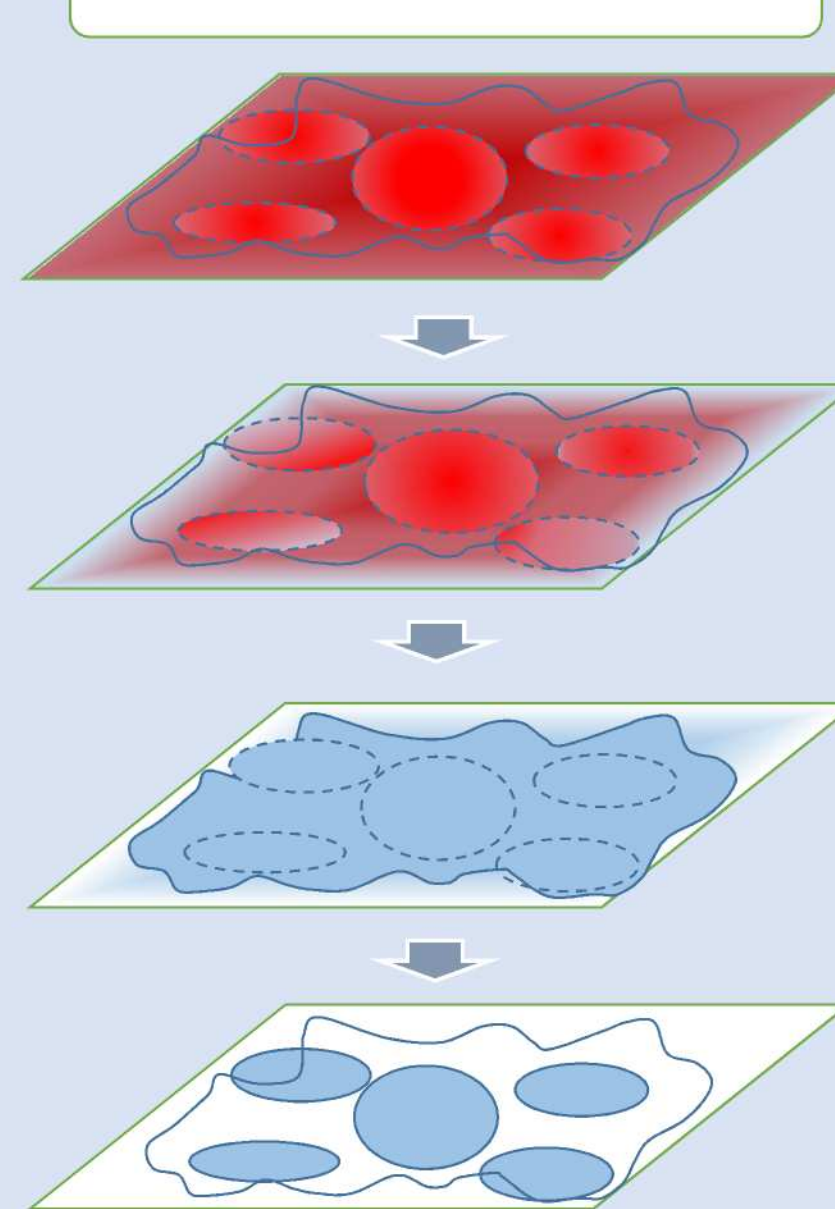
- 市街化を抑制すべき地域
- 都市計画区域外

- 主要な公共交通の拠点
- 公共交通の拠点
- 鉄道網



人口減少の進行に伴う人口バランスの変化

都市における人口バランスの変化(イメージ)



2015
(平成27年)

2040
(平成52年)

2060
(平成72年)

- ・人口は13%減少
- ・高齢化率は36%に上昇
(平成37年には3人に1人が高齢者に)
- ・市街地の規模は変わらない見込み
- ・周辺部等で大きく人口減少するエリアが発生
- ・全市域でスポンジ状に空き家・空き地が増加

- ・人口は30%程度減少
(全国ベースと近似)
- ・高齢化率は40%程度に
(全国ベースと近似。平成54年頃をピークに減少に転じる)

マクロ:
都市全体

ミクロ(地域単位)で見た場合、都市マスの目指す「将来の都市構造」の実現が困難となる可能性がある。

ミクロ:
地域、学区、コミュニティ

・本市では、都市マスに基づき、まとまりのある土地利用を図ることにより、にぎわいのある暮らしやすいまちづくりを目指しているが、今後の人口減少・少子高齢化社会に対応した、魅力あるまちづくりを目指した持続可能な都市の構築を検討していく必要がある。

都市計画マスタープラン

人口構成、
社会経済動向の変化

持続可能な都市の構築に
向けた検討

より実行性のあるプラン